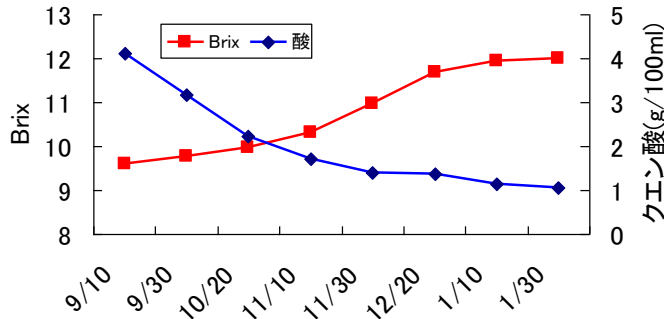


‘媛小春’の安定生産と貯蔵技術

強樹勢のため着果がやや不安定であるが、高接ぎ4年目頃から結実し始め、樹が落ち着いてくると連年生産が可能となる。また、新聞で囲い10℃で貯蔵することにより4月までの貯蔵が可能である。

果実品質



1月30日時点 糖度12 クエン酸1.0

結実管理



果頂部の奇形

- 果梗枝の太い上向き果
- 奇形果を摘果する。



- 結果枝葉5枚以上の単生有葉果を主体に残す。
- 葉裏に着果多く、摘果は9月以降に行う。

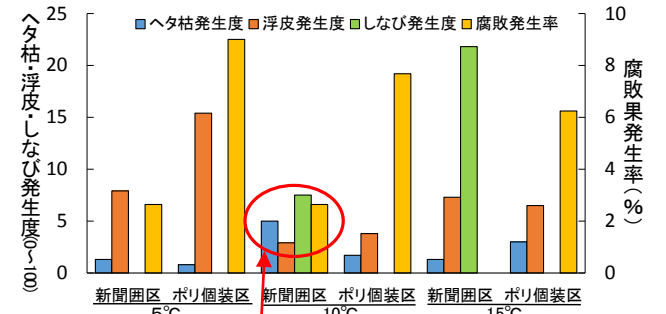
時期別糖度の目安

9月30日	9.8
11月10日	10.3
12月20日	11.7

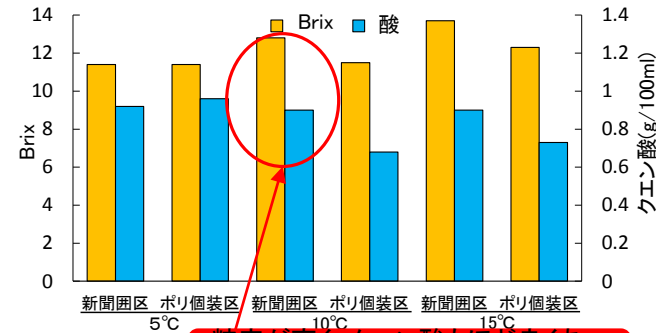
1月30日に糖度12以上

貯蔵技術

1月下旬に収穫した果実をコンテナ内に新聞で囲い、10℃で4月上旬まで貯蔵

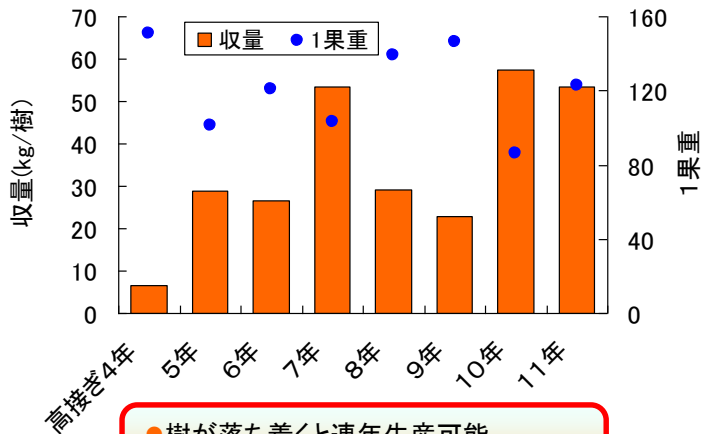


しなびの発生はあるが、腐敗果や浮皮の発生が少ない。



糖度が高く、クエン酸もほとんど良くある。

収量・階級



- 樹が落ち着くと連年生産可能
- 果実の大きさは温州規格のL果中心



- 新聞で囲う
- 10℃で貯蔵